

現代神学 第10回  
オンデマンド動画 第5回

# 宗教の神学

小原 克博

1

## Overview

1. 宗教の神学の背景
2. 宗教の神学の必要性 — 宗教間対話の基礎付け
3. 日常的な取り組みの事例
4. 21世紀の宗教間対話に求められているもの
5. 今回の課題

2

1

## 宗教の神学の背景

3

## 「宗教の神学」の主題

- ・ キリスト教は、他の諸宗教をどのように理解するのか。
- ・ キリスト教は、他の諸宗教に直面して、どのような自己理解をするのか。
- ・ **宗教的多元性**を神学的にどのように解釈するのか。
- ・ **宗教間対話**はなぜ必要か。また、どのようにすれば促進することができるのか。

4

## 私の体験から

- ・ドイツでの留学
  - ・ 冷戦、ベルリンの壁の崩壊、東西ドイツの統一、そして社会不安
  - ・ 日本宗教の学びと紹介、キリスト教とユダヤ教の対話、イスラームの授業
- ・ 9.11同時多発テロ事件（2001年）以降
  - ・ トルコ系移民：「労働者」から「ムスリム」へ

5



6



7

# 2

## 宗教の神学の必要性 — 宗教間対話の基礎付け —

8

Kristallnacht  
1938.11.09



9

## 欧米の場合

- ・ユダヤ教、イスラームとキリスト教の対話は歴史的必然性を有している。
- ・第二次世界大戦時におけるホロコースト
- ・9.11以降のイスラモフォビア（イスラムへの憎悪感情）の拡大
- ・シリア等からの移民の大量の流入
- ・社会の世俗化・宗教多元化への対応
- ・世俗主義（政教分離）は、多様なアイデンティティを超越的に媒介する役割を果たしてきたが、課題も多くある。

10

## 日本の場合

- ・宗教間対話は「世界平和」を目的とする場合が多い。
- ・近年の特徴——私の経験から
- ・現代日本においては、宗教間対話を推し進めなければならない切羽詰まった事情があまりない（サロンの対話）。
- ・声高にスローガンが述べられても、実践は伴わない。
- ・平和の占有と、暴力の外部化

11

## 近代日本における宗教間対話

- ・知識層における宗教間対話（特に仏教とキリスト教の対話）への関心
- ・仏教からキリスト教（ユニテリアン）への関心。普遍主義（universalism）への関心。
- ・前近代的とされた民俗宗教などは対話の対象外。
- ・国体イデオロギーのもとでの宗教間の協調関係（三教会同、1912年）、そして戦争協力

12

## 宗教的多元性に対する3つの類型

- ・ 排他主義 (exclusivism) : 救いは自宗教においてのみ
  - ・ 包括主義 (Inclusivism) : 他の宗教にも救済の可能性
  - ・ 多元主義 (pluralism) : すべての宗教は基本的に対等
- 詳細はリーディング・アサインメント

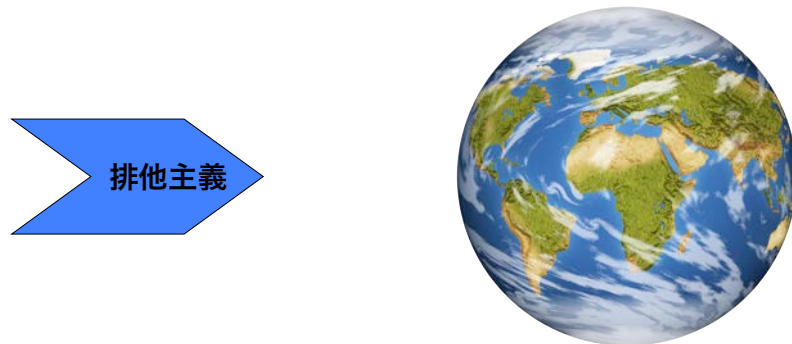
13

## 他宗教理解の類型



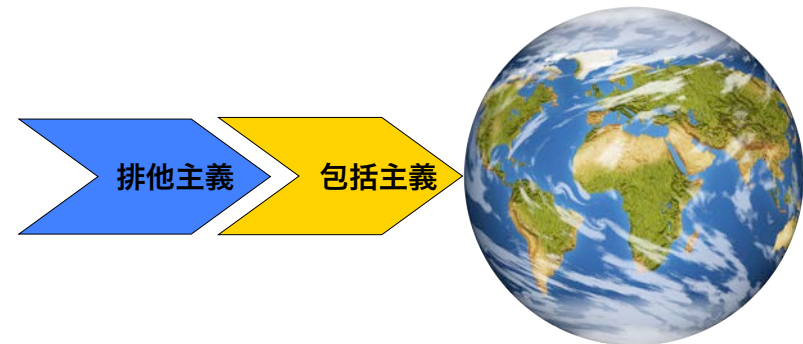
14

## 他宗教理解の類型



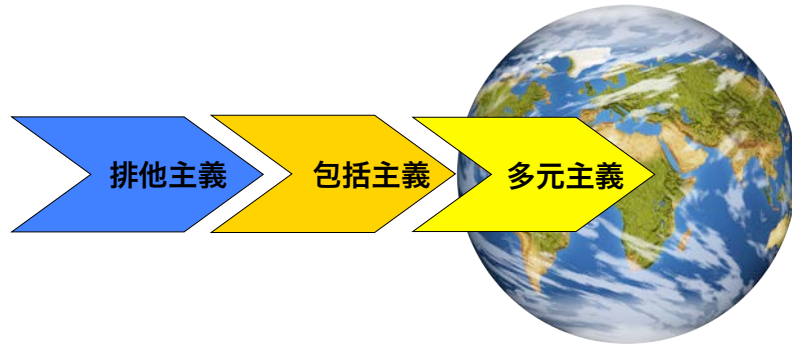
15

## 他宗教理解の類型



16

## 他宗教理解の類型



17

## 他宗教理解の類型



18

## 3

### 日常的な 取り組みの事例

### 同志社大学 一神教学際研究センター (CISMOR)

- ・ 2003年設立、2010-15年 センター長を務める
- ・ 対話の対象とされてこなかった人々（グループ）との対話
  - ・ キリスト教：福音派（ファンダメンタリスト）
  - ・ イスラーム：過激なイスラーム主義者、タリバーン
- ・ サウジアラビアとの対話

19

20





21



22

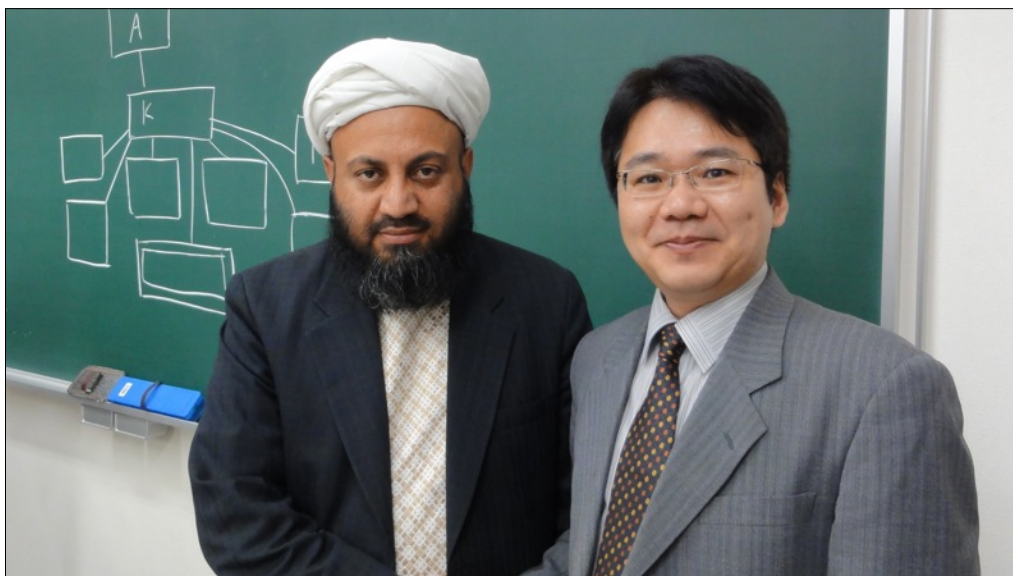


23



24





25

## 京都・宗教系大学院連合 (K-GURS)

- ・ 2005年設立。仏教同士の対話の促進、マイノリティとしてのキリスト教の役割。後に神道の皇學館大学も加盟。
- ・ 若い世代（将来の僧侶・牧師）における宗教間対話の促進
- ・ 共通の課題認識
- ・ チェーンレクチャー、研究会等を開催

26

## 同志社大学 良心学研究センター

- ・ 2015年設立。
- ・ 宗教的価値と世俗的価値（科学を含む）を架橋する力として「良心」（conscience=共に知る）を探究。
- ・ 2017年、公開シンポジウム「仏教とキリスト教の対話——共通善を求めて」講師：大谷光真（浄土真宗本願寺派・前門主）

27



28



29



30



31

4

21世紀の宗教間対話に  
求められているもの

32



## 問題解決としての宗教的アイデンティティの強調？

あいにく、そうした暴力をなくそうとする多くの善意の試みもまた、われわれのアイデンティティには**選択の余地がない**という思い込みに縛られており、それが暴力を根絶する力を大いに弱めることになる。異なる人びとのあいだで良好な関係を築こうとする試みがおもに、（人間がお互いにかかわりあるその他無数の方法には目もくれず）「文明の友好」とか「**宗教間の対話**」、あるいは「さまざまな共同体間の友好関係」という観点から見られれば（現にその傾向は強くなっている）、平和を模索する以前に、**人間が矮小化**されることになる。（4頁）



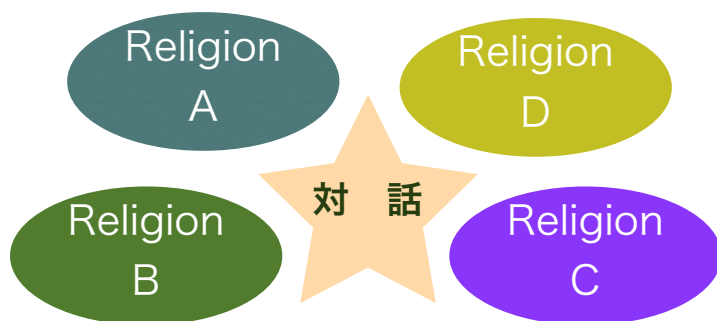
33

## 宗教間対話の課題

- 他者の宗教的感情の尊重。
- 諸宗教の共存可能条件の形成。
- 各宗教内における保守派（原理主義者）とリベラル派の対話。
- 宗教的価値と世俗的価値（人権などの啓蒙主義的価値や科学的世界観）の対立の抑制。
- アイデンティティの多様性の認識（宗教はその一つに過ぎない）。

34

## 宗教間対話 Type 1



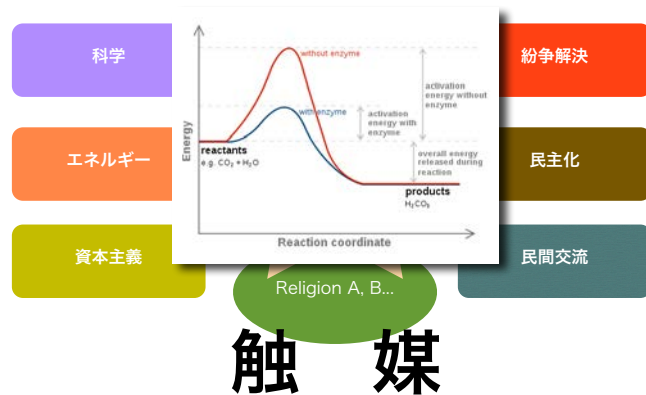
35

## 宗教間対話 Type 2

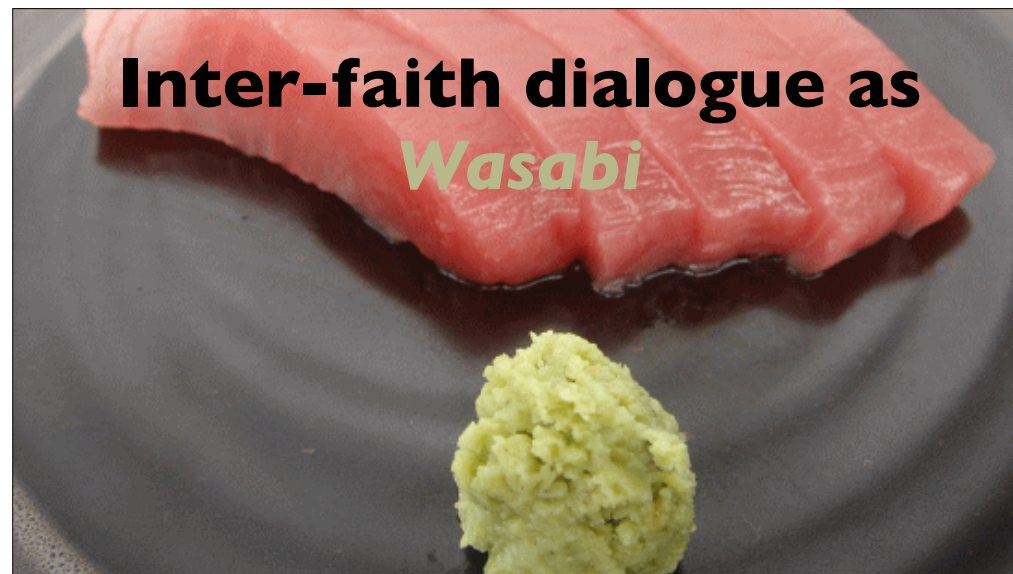


36

## 宗教間対話 Type 2



37



38

## 【参考文献】

- ・ ジョン・ヒック 『宗教多元主義——宗教理解のパラダイム変換』（間瀬啓允訳）法蔵館、1990年。
- ・ ゲイヴィン・デコスタ 『キリスト教は他宗教をどう考えるか——ポスト多元主義の宗教と神学』（森本あんり訳）教文館、1997年。

39

## 5 今回の課題（600～800字）

1. 以下のリーディング・アサインメントを読んでください。
  - ・ 「宗教の多元化と多元主義——宗教の神学の課題」、小原克博 『宗教のポリティクス——日本社会と一神教世界の邂逅』 晃洋書房、2010年、119-149頁。
2. 上記の内容と今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください。

40